

## 千葉大学における質保証の取り組みについて

前田早苗  
千葉大学

### 1. はじめに

本日は、千葉大学全体の質保証に関する取り組みと、普遍教育センターの取り組みについてお話しさせていただきます。千葉大学では、教養教育のことを普遍教育といっています。普遍教育センターは、いわゆる教養教育の運営の責任部局です。

まず、千葉大学の質保証への取り組みからご説明します。千葉大学は、2007年に認証評価を受けました。この認証評価の結果を待つという段階で、私は千葉大学に着任しました。当時の責任者が、評価結果の出る前に、恒常的な自己点検・評価を行うことを提案したのです。

私は、2008年4月に大学評価関係規程を改定するというプロセスから参加しました。この時期に大学評価関係規程を改定する背景には、今まで規程があってもあまり機能していなかったということがあったようです。その結果、大学評価では、「大学基本データ分析による点検・評価」「認証評価に基づく自己点検・評価」「年度計画の進捗状況に基づく自己点検・評価」「年度計画の実施状況に基づく自己点検・評価」「中期目標の実施状況に基づく自己点検・評価」と、実に五つの評価を行うことが決定されました。最初の二つが認証評価関係で、残りの三つが法人評価関係です。

毎年行うのは、「大学基本データ分析による点検・評価」「認証評価に基づく自己点検・評価」「年度計画の進捗状況に基づく自己点検・評価」「年度計画の実施状況に基づく自己点検・評価」です。自己点検・評価の中心的組織は、「大学評価対応室」で、室長は企画担当理事が兼任しています。そして、その下に認証評価のための「認証評価対応部会」、「中期目標対応部会」「次期中期目標・計画検討部会」という三つの部会を置きました。各部会で、それぞれの評価を行います。

「認証評価対応部会」は、「大学基本データ分析による点検・評価」と「認証評価に基づく自己点検・評価」を担当し、「中期目標対応部会」と「次期中期目標・計画検討部会」の二つが法人評価対応で、法人としての中期目標計画を立てる部会と、その目標計画を実施する部会です。そして、この評価の事務を進めるために重要な役割を果たす組織が、「企画総務部企画政策課」です。

### 2. 「認証評価対応部会」で分析後、結果案を各部局に提示

本日、お話ししたいのは、この五つの評価のうちの、「大学基本データ分析による点検・評価」です。これは、大学評価・学位授与機構が、認証評価のためにデータをとっているものです。この項目を利用して評価しようということからわかるように、もともとは認証評価対応でした。評価項目には、大学情報データベースから15項目、千葉大学独自に設定

した各部局に関する 10 項目の、計 25 項目があります。これを、企画政策課が、毎年、部局別の比較、経年変化率などのデータとしてまとめ、500 ページ程度の内部資料を作ります。これに基づいて、「認証評価対応部会」が評価をします。

評価基準は、項目ごとに内部でつくっています。単純なものとしては入学率、定員との比率などがあります。数値基準があるものは簡単ですが、中には、数値基準がないものもあります。基準を設定できないものもありますが、中期目標計画で具体的な数値を持っていれば、それを使うなど工夫をしながら、評価基準をつくっていきます。その評価基準に合わせ、ABC の 3 段階の評価レベルを設定します。これを「認証評価対応部会」で評価していきます。評価結果を提示するだけでなく、優れた点や改善を要する点なども付記します。

評価プロセスとしては、企画政策課でデータ収集を行い、「認証評価対応部会」で分析後、結果案を各部局に提示します。そして、その結果について各部局から意見をもらう機会もあります。大きな問題点については、どのような改善策があるのか、もう改善しているのかという報告を求めることもあります。そして、最終的にやりとりが終わった後の評価結果は、学内外に公表すると規定されています。認証評価と法人評価だけでなく、千葉大学独自で、基本データ分析として始めたものも、すべて公表の対象になります。

これらの自己点検・評価の試みは、スタートは、法定評価に対応するためにつくられた仕掛けでした。ところが、企画政策課が一生懸命データ収集をし、どうすれば大学の姿がきちんと描けるか、自己点検評価に有効だろうかということを、相談をしてデータを作成するようになりました。法定評価への対応だったことが、次第に、自主的・自律的な自己点検・評価へと変わっていったのです。

データ収集や分析の方法・技術は進化し、データベース化も進んでいる大学もありますが、データを収集する際は、各部局に頭を下げてデータを出してもらうようお願いする状況もあるようです。データ収集と分析はまだ発展途上にありますし、データ分析には限界もあり、自己点検評価の一つの要素でしかありません。

しかし、各部局からもらったデータを分析して結果を各部局に返すことは、学内に大学の姿を知ってもらうという観点において、意義があると思います。さらにもう一段進めることができれば、部局別の自己点検評価から共通のフレームワークを設定するということが可能ではないかと考えています。

### **3. 2015 年度までに全部局が自己点検・評価および外部評価を実施**

本学では、第二期中期目標・計画の中で、全部局が 2015 年度までに自己点検・評価および外部評価を実施すると決められています。今のところ、項目設定は部局の判断にまかせており、回数についても、2015 年度までの間に何回実施してもよいし、1 回でもいいということになっています。進捗については、本部が現在確認をとっています。各部局が評価を行った結果は認証評価対応部会に報告し、各部局の評価の分析を認証評価対応部会が実施していく形にしていきたいと考えています。

このように部局から提出された自己点検評価を分析し、どの部局も同じフレームワークで点検できるものを見つけようとしています。今のところ、かなり簡単な評価を自己点検評価と称している部局もあり、足並みを揃えるのは大変です。しかし、少しずつ取り組

んでいきたいと考えています。そして、各部局で行う自己点検評価と、全学で行うデータ分析に基づく自己点検評価、この定量的・定性的分析の組み合わせにより、自己点検評価を充実させていこうとしています。そのためには、中心組織が安定していることが大事ですが、認証評価対応部会のメンバーは変わっていくので、企画政策課が事務としてどれだけ支えてくれるかも大きな要素です。これが、千葉大学の全学的な質保証の枠組みです。

#### 4. 「普遍教育科目」は全学出動体制で開講

次に、普遍教育センターの活動についてご紹介します。千葉大学の学部数は、文、教育、法経、理、医、薬、看護、工、園芸の9学部あります。学生数は、1年次定員が2,315人、全学部生は10,745人です。これらの学生に対して普遍教育を行っています。科目数は、約1,300科目あります。普遍教育は「普遍教育科目」と「共通専門基礎科目」から成り、「普遍教育科目」は、英語、初修外国語、情報リテラシー、スポーツ・健康、教養コア、教養展開があります。教養コアは、6分野にわたっており、全学部生が必修で1分野1単位×6分野、計6単位を履修します。教養展開は、選択科目で、卒業までに履修しなければいけません。「共通専門基礎科目」は理系学部向けに設置されています。

普遍教育の実施体制ですが、企画は普遍教育センターが行っています。専任教員は、各学部から何年間という期限付きで来る人も含め、10名弱です。普遍教育の運営は、普遍教育センターと、専門教員集団が行っています。専任教員は、1,200人程度おり、それぞれ15の専門教員集団のいずれかに所属します。授業については、全学出動体制になっていますが、学部科目担当割り当ては行っていません。そのため、ある程度自主的に科目が出てくるという状況です。現時点ではそれで科目数は十分開設されていますが、普遍教育の体系性や社会人基礎力などの社会からの要求を考慮すると、今後は、普遍教育センターで、科目をどんどん企画・提案していかなければいけないと考えています。

#### 5. それぞれの教員が行っていることをつなげて線にしていく

次に、質保証に対する対応を説明します。三つのポリシーにおける普遍教育の位置づけに関しては、全学のディプロマ・ポリシー(DP)にはかなりスペースを割いて、普遍教育に該当することが書かれています。しかし、これに学部単位でどのように対応していくかは、今、各部局から案が出てきたばかりですので、今後、普遍教育の質保証にどのように取り組んでいくのかというのは、大きな課題になっています。

現在までで、普遍教育センターで行ったことは、カリキュラムマップを試行的に作成し、どのような科目配置なのかを分析してみたことです。この結果を参考に、どのように次のステップに進めていこうかを考えているという段階です。

また、学習の質保証ということで、シラバスガイドラインの見直しも行いました。来年度から変わると思いますが、例えば、目標であれば、一般目標と個別科目の目標を別を書くなど、さまざまな仕掛けを作っています。大規模な大学のため、全学に関わることは、シラバスのガイドラインが全学部で同じ様式を利用しているように、普遍教育センターが発信源になっていることも多くあります。ただ、ガイドラインはあっても、中身に関しては、今後さらに充実させていく必要があります。さらに、単位の実質化という意味では半期15週の授業の確保も実現しました。

厳格な成績評価に関しては、数年前から GPCA を全科目で実施するようになりました。GPCA というのは用語として認知されているかどうかはわからないのですが、それぞれの科目の評価の平均値を一覧表にしたものを分析するというので、これも実施しています。

また、教員のための普遍教育マニュアルも作成しました。まだ教養コア科目だけですが、シラバスに盛り込んでほしい内容をコア科目担当の各集団の主任から提案してもらい、それをもとにモデルシラバスを作成しています。普遍教育マニュアルは、現状では手続き的な内容が多くなっており、教育の質に関わることは、これから厚みをつけていかなければいけないと考えています。

このように、さまざまな仕掛けをつくっているのですが、実際は教員の数が多く、学部を越えるとわからないことも多いので、9 学部すべてに学部訪問を行い、実施状況やこちらが提案した内容についてどう考えているかなどをうかがっています。毎年 1, 2 回、テーマを持って普遍教育センターの教員が学部訪問を行い、1 回につき 1-2 時間、お話をうかがいます。

さらに、教員へのインタビューも行っています。それほど進んではいませんが、GPCA で極端に評価が甘い教員と厳しい教員を中心に話を聞きに行こうと思っています。現在 10 人弱の教員へのインタビューが終了しています。インタビューでは毎回、なんらかの収穫があります。

学習会も月 1 回行っています。月 1 回テーマを決めての学習会では、十数人しか集まりませんが、各学部でどのような試みがされているかを知ることができます。これらの取り組みを通して、それぞれの教員が行っていることをつなげて線にしていく。そうした試みを今後も行っていきたいと思っています。

## 6. 大事なものは、目標の達成に向けたプロセスの中味

最後に、質保証の課題について私見を述べさせていただきます。これは、千葉大学だけではなく、一般論としてですが、私がいろいろな大学でお話をうかがっていて思うのは、「質保証」という用語が、教員に本当に理解されているのだろうかということです。今、「大学評価」という言葉を知らない先生は少ないと思いますが、「質保証」という用語を知らない先生は少なくないのではないのでしょうか。「質保証」の必要性を理解していないのに、「授業は 15 回しなさい」など、仕掛けだけがどんどん降ってきて、やり方だけ決まってい。このような状況では、質保証の取り組みが形骸化していくのではないかと危惧しています。評価に関しては、結果が見える形で出すことが求められていますが、これが形骸化に拍車をかけているとも言えます。大事なものは、目標の達成に向けて、どのようなプロセスを大学がとっているのかです。目標を達成したかどうかではなく、良い教育をするにはどうすればいいだろうかということに重点を置きながら、さまざまな取り組みを行うという形ができればよいと考えています。

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

## 千葉大学における質保証の 取り組みについて

千葉大学普遍教育センター  
前田 早苗

2010.9.10

1

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

## はじめに

- 質保証への取り組み
  - ◆ 全学的な自己点検・評価
  - ◆ 部局ごとの自己点検・評価
- 普遍教育センターの活動

2010.9.10

2

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

## 質保証への取り組み

2010.9.10

3

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

## 全学的な自己点検・評価

- 2007年度に認証評価を受ける
  - ➡ 恒常的な自己点検・評価の必要性
- 2008年4月に大学評価関係規程を改定
- 中心組織
  - ✓ 大学評価対応室(室長 企画担当理事)
  - ✓ 企画総務部企画政策課

2010.9.10

4

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

## 大学基本データ分析による点検・評価

- ✓ 点検項目 25項目
- ✓ 評価基準 項目ごとに独自に設定
- ✓ 評価結果
  - 点検・評価結果、優れた点、改善を要する点、評価レベル
  - 学内外に公表(予定)

2010.9.10

5

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

## 部局ごとの自己点検・評価

- 第2期中期目標・計画に全部局による自己点検・評価及び外部評価を掲げる
- 分析
  - 各部局の自己点検・評価報告書の分析を認証評価対応部会で実施する予定

2010.9.10

6

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

### 質保証としての自己点検・評価(私見)

- ✓ スタートは法定評価への「対応」
- ✓ 自主的、自律的な自己点検・評価へと変化
- ✓ データ収集・分析は発展途上
- ✓ データ分析は、自己点検・評価の一つの要素
- ✓ 毎年着実に実施し、学内に大学の姿を知ってもらう
- ✓ 部局別自己点検・評価の分析から、共通のフレームワークを設定
- ✓ 全学と部局、定量的・定性的分析の組み合わせによる自己点検・評価の充実
- ✓ 中心組織の安定

2010.9.10 7

7

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

### 普遍教育センターの活動

2010.9.10 8

8

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

### 普遍教育の概要

- ✓ 学部数 9学部  
(文、教育、法経、理、医、薬、看護、工、園芸)
- ✓ 学生数 全 10,745 1年次生 2,315
- ✓ 普遍教育の構成(科目数 約1300科目)  
普遍教育科目(英語、初修外国語、情報リテラシー、スポーツ・健康、教養コア、教養展開)  
共通専門基礎科目

2010.9.10 9

9

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

### 普遍教育の実施体制

- ✓ 普遍教育の企画  
普遍教育センター
- ✓ 普遍教育の運営  
普遍教育センターと専門教員集団  
(専任教員は、専門教員集団(15集団)のいずれかに所属)
- ✓ 授業担当  
全学出動体制だが、学部により科目担当割り当てを行わない

2010.9.10 10

10

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

### 質保証への対応

- ✓ 3つのポリシーにおける普遍教育の位置づけ  
カリキュラムマップの試み
- ✓ 学習の保証  
シラバスガイドラインの見直し、半期15週の授業の確保
- ✓ 厳格な成績評価  
GPAの全学実施、GPCAの分析
- ✓ 教員のための普遍教育マニュアルの作成等々

2010.9.10 11

11

AD ALTIORA SEMPER つねに、より高きものをめざして Chiba University

### 普遍教育センターの取組

- 対話  
学部訪問  
教員へのインタビュー
- 学習会

2010.9.10 12

12

## おわりに

### □ 質保証の課題(一般論として)

- 「質保証」という用語は理解されているか
- 質保証のための仕組みは形骸化していないか
- 結果の可視化が過度に重視されていないか
- 目標に向けてのプロセスを重視すべきではないか